

化学と教育

第73巻 第3号 2025年 目次

ヘッドライン 東アジア化学史における 日本の化学・化学者の貢献

本誌72巻3号(2024年)の化学史特集では「戦時下の化学」を扱った。その背景としては、ウクライナとロシアとの間に戦火があったことであった。しかし、両国の間は依然として戦火にある。そこで今号も引き続き同時代の化学を扱うが、今号は「東アジア化学史」とそこでの「日本の化学・化学者の役割」をテーマにする。具体的には「満州、中国、台湾、朝鮮における化学」を紹介する。

東アジアにおける日本の営為は、場合によっては否定的に語られることもあるが、地域によっては、インフラを整備し、また日本が建築した建造物を今も大事に使用している地域もあり、日本の文化が良い形で残っている場合もある。そこで全体を通して、「化学」を中心に東アジアにおける日本の化学や化学者に焦点を当てて、その役割を再考する。

満鉄中央試験所とアルミニウム研究	山口 直樹	80
文人化学者近重真澄と東アジア古代化学史	八耳 俊文	84
台北帝国大学における野副鐵男とヒノキチオール	河野 俊哉	88
植民地朝鮮における日本人化学者の研究活動 —京城帝国大学理工学部を中心に—	任 正嫻	92
ある「半島出身学徒」の栄光と苦悩 —京都帝国大学における李升基の研究とその後—	古川 安	96

◆ 化学教育 徒然草

「デュアル・ユース」—生徒とともに考えたいこと—	木内保太郎	77
--------------------------	-------	----

◆ 実験の広場

ビギナーのための実験マニュアル		
アコヤガイの貝殻を使用してカルシウム化合物の性質を調べる	廣瀬 里佳	100
化学クラブただ今実験中!		
長崎県立長崎西高等学校 化学部 権藤 好信		102

◆ 新・講座：身近な無機多孔質材料による吸着と分離

①身近な無機多孔質材料と吸着	森田 将司・前田 和之	103
②粘土鉱物材料「ベントナイト」のメチレンブルー吸着による性能評価	三好 陽子	107

表紙の言葉 山梨県立甲府南高等学校

山梨県立甲府南高等学校は、『開拓者精神～Frontier Spirit～』を校訓とし、令和6年度で創立62年を迎えた、理数科を設置している県立高等学校です。平成16年度(2004年度)よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、令和6年度は先導期改革型I期の3年目の節目を迎えました。

放課後になると多くの生徒が、グラウンド、体育館、芸術棟、各理科実験室他に集まり、時間の許す限り部活動に没頭します。生徒と生徒、生徒と教員が語り合い、学習活動に部活動にと充実した日々を楽しんでいます。

これからも地域の理数系教育を担う拠点校として使命を果たしていく所存です。

◆ 実践報告

カラーリングした毛髪の色落ち 平野 孝明…………… 111

◆ 論壇

硝酸の反応は「ニトロ化」か? 伊藤 真人…………… 115

◆ 話題

国際関係小委員会報告—ICCE 2024— 内ノ倉真吾…………… 117

◆ Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより…………… 119

◆ Color Gallery

実験の広場 アコヤガイの貝殻を使用してカルシウム化合物の性質を調べる 廣瀬 里佳…………… 口絵 5

実践報告 カラーリングした毛髪の色落ち 平野 孝明…………… 口絵 6

会告

△ 化教誌編集委員会から

2025年度 化学と教育誌編集委員会…………… 120

△ 日本化学会から

2024年度日本化学会 表彰／化学教育賞・化学教育有功賞 受賞者紹介…………… 121

■ 行事一覧…………… 127

■ 編集後記…………… 128

■ 求人…………… 127

次号ヘッドライン

市民として必要な基礎・基本の化学Ⅱ 児童・生徒・学生の主体的な学びのための工夫

〔令和7年度(2025年度) 化教誌編集委員会委員一覧〕

委員長 久新莊一郎

副委員長 兵藤 友紀 松岡 雅忠

担当役員 近藤 輝幸 五十嵐達也

編集委員 飯島 隆広 池田 俊明 岩井 秀人 河西奈保子 熊本 卓哉

島 隆則 高見 聡 佃 俊明 宮本 一弘 村中 厚哉

藪内 一博 山本 哲也 渡辺 真伍